

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090800010		
法人名	医療法人 富士たちばなクリニック		
事業所名	グループホーム 明月		
所在地	群馬県渋川市伊香保町伊香保525-202		
自己評価作成日	平成29年8月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様と共に料理や園芸を楽しんでいる。 ・外出(外食・ドライブ・買い物)に積極的に取り組んでいる。 ・施設新聞を作成している。 ・掃除をしっかりとし、きれいな施設を目指している。 ・併設事業所(通所介護)との交流を常時行っている。 ・慰問(小中学生、園児、サロン)で地域との交流を深めている。 ・毎朝ラジオ体操を行い、習慣的に身体を動かす時間を設けている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりの安眠が得られるよう、在宅の時の生活リズムを乱さないためにも、入眠直前の入浴介助を理想に掲げ、午前実施していた入浴時間を午後に変更し、職員の負担にも配慮しながら利用者の利益を図っている。管理者は、職員との関わりにおいて目標管理を導入し、年2回の個別面談の中で、個人評価の把握とともに、助言による振り返りを行っている。また、毎月開催する職員会議で、「畑を作り、利用者野菜を育て、食事に出したら楽しいのではないか」などの意見を取り入れ、野菜の栽培の実現を図るなど、個々の職員の意見の吸い上げと実現に向けての姿勢により、事業所のよりよい運営改善に繋げている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、日々のケアに戸惑った時は理念に立ち返るようにしている。	法人の理念をもとに、3年前に、職員全員で検討し、「笑顔」をキーワードにした理念を作成した。管理者は、日々の支援の中で常に理念の内容を言葉にし、今後、朝礼時に唱和することも考えながら、職員意識を高める努力を実践している。	職員全員で作成した内容であるが、理念の言葉の意味を深める話し合いを持つ機会を作り、職員の支援姿勢が常に行動に反映されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の掃除活動や、イベントに参加。小・中学校に出向き、車椅子の使用方法等の介護講習を行っている。	自治会に入り、道路・公園等の清掃・整備に協力するとともに、福祉事業の一環として小・中学校に出向き、介護講習を実施する等、事業所と地域の交流に努めている。今後、地域への受け皿づくりとして「認知症カフェ」を開き、事業所の存在感を高めたい構想がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問やイベントの招待、サロンへの参加を経て、認知症への理解を深めて頂くようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、事業所への理解を深めて頂くようにしていると共に、日々の面会の中でもご家族の意向を取り入れる様になっている	会議は、法人の事務長・地域包括センターの職員が時々参加し、出席者は主に管理者と6～7人の家族である。家族からは、利用者が夜眠れる支援の提供があり、ラジオ体操や散歩の導入、午後入浴の開始等、支援行動を検討し利用者へのサービス向上に努めている。	会議の出席者がほぼ家族と管理者になりやすいため、会議内容が多角的視点で検討できるような幅広い人選や、会議に出席しやすい工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所・地域包括センターへ出向き話し合いの場を作っている。	市との関わりでは、利用者のサービス向上の為、通常の手続き等の相談とともに、オムツ支給の再開要望や、花壇作成にあたっての、事業所前の市有地の土地活用等を相談するなど、幅広い協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する説明書(指針)あり。日中は施錠せず、見守り・声掛けを重視している。職員間で話し合い可能な限り身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	拘束についての家族への説明は、入居時に行っている。利用者的人格・尊厳が「拘束しないケア」でどう守られるかなど、月1回の勉強会で研修参加の職員による伝達講義や、関わりについてケースカンファレンスを通し振り返りを行っている。	知識としての理解から、残存機能を念頭においた拘束をしない支援を提供するための共通理解を図る体制づくりに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスや日々のケア会議の中で、職員の意識確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修に参加する事で理解を深めている。また、毎月の勉強会の中でも学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等を基に疑問点を確認しながら管理者・責任者より説明を行っている。入居後も不安・疑問点について面会や電話連絡等で連携を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議にて管理者・責任者は意見交換を行っている	家族から自宅のポータブルトイレを持参し、活用を依頼されたり、夜間の職員を複数にする等の意見も出されているが、管理者は否定せず聞くことを心掛け、出来る所からやってみる姿勢で取り組みをしている。とりたてて、運営に関する家族への意見の聴取に繋がる投げ掛けは、していない。	事業所の運営に関わる意見を意識した、家族への問いかけの機会作りを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の会議やカンファレンス等で出た意見をなるべく反映させるようにしている	管理者は、日頃の雑談の中でも表情を見たり、個別の意見を傾聴したりしている。会議の議題は、職員から事前に(半月前に)提出してもらい、個々の意見を考える時間を作る等、職員の意見や提案を引き出す工夫をしている。「畑を作り野菜を食事に提供したら楽しいのでは」等の意見が、実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の中で、目標等を話し合っている。職員の経験年数等を基準として役割や得意分野を活かした係・職務・担当決定に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会の開催。管理者が職員の力量に応じた研修参加計画を立て、希望者に合わせて参加している。研修後は、報告会を開き情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、近隣の施設・居宅介護支援事業所・学校へ出向き意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能な限り自宅や施設等へ訪問させて頂き、本人や家族から意見・相談を受ける時間を設けている。又、事前にホームへ来て頂き雰囲気やケアの様子を確認して頂く。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事を解消できるように努力させて頂いている。また、訪問しやすい、相談しやすい雰囲気を作る様に心がけている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた段階で、必要性を含めた状況の確認をしている。その際に、他のサービスに関しての情報や社会資源等サービスの幅を広げられるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等でお手伝いして頂ける部分は協力させて頂いており、また、その中で職員が学ぶことも多い。イベント等の準備も職員、利用者様一丸となって行っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共同にご利用様を支えて行けるように連絡を取り合っており、職員からご家族に何かを依頼するケースもある			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域サロンへの参加や、住み慣れた地域の散策、ドライブなどを積極的に行っている	事業所と廊下で繋がっているデイサービスには、馴染みの人も利用しており、散歩で交流したり、利用者がデイサービスの行事に参加したり等、馴染みの人と関わる機会となっている。また、利用者は月に1回個人が運営する地域サロンに参加し、体操や染物・桜を見る会等を楽しみの場としている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団のレクリエーション等を取り入れ孤立しないよう支えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来所しやすい施設であることを心掛け、雰囲気作りを行っている。 相談があれば、随時支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを活かせるような、ケアが出来るように心がけている	家族から入居前の本人の様子を聞くと共に、「その人らしさ」の実現に向け、ケアが画一にならないよう、一人ひとりの変化を見逃さないように注視し、職員間で情報を共有し支援に活かしている。表現できない人には五感を働かせ、普段と違う行動があるか否かで、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から教えて頂き、取り入れられるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化も見逃さない様に観察を行い、職員同士で情報共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例会議以外でも必要であれば、相談し、それに基づいて作成している	入居時に、家族・本人の希望を聞きケアマネジャーが計画作成し、短期3ヶ月・長期6ヶ月で評価している。個別のカンファレンスは、毎月の医師の往診時や看護師の意見を「カンファレンスの要点」として記載された書式をもとに、管理者・担当者・ケアマネジャーで話し合い、ケア内容を共有している。	日々の記録・カンファレンス議題の要点・計画達成度の評価の根拠が、介護計画と連動した記録作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に残し、情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士でアイデアを出し合い、可能な限りニーズに応えられるようサービスの質向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域サロンへの参加や、希望者の地域の催し物への参加などを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族様が希望する病院との連携を取っている	入居前のかかりつけ医の受診は可能であるが、ほとんどの利用者は、事業所の母体病院をかかりつけ医としている。受診は職員が同行し、月2回往診がある。週1回は、訪問看護師が来所している。希望する家族への病状説明を、適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護や併設デイサービスの看護師に相談し、アドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員全員が面会に行けるように調整を行っている。また、病院内の関係者との話し合いも設け、職員間で共有できるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望を取り入れ、最善のケアが出来る様に話し合い、取り組んでいる	看取りケアを実施しており、入居時に家族へ終末期の意向を聞いている。医師から看取りの時期と話ができれば、再度家族に相談し、家族の意見・要望は出来る限り実現に努めている。看取り後のカンファレンスは必ず行い、振り返りを通して次のケアに繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冷静に対応できるように、勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っているほか、地域の合同訓練に参加している	火災における屋間想定避難訓練を、職員及び消防署員参加のもと、併設施設と合同で年2回実施している。また、夜間想定は事業所独自で実施し、近隣住居の職員の出勤を第1とし、避難誘導方法に取り組んでいる。備蓄は、1ヶ月分確保している。	事業所の近くには住宅がないため、近隣支援の方法を職員とともに考える機会をもち、地域・事業所が協力し合える体制作りを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いには気を付けるようにしている。また、職員同士声を掛け合い、適度に休憩を入れる等言葉が荒くならない様に気を付けている	利用者の呼称は名字に「さん」で対応し、尊厳を重視して、その人の存在することの意味を意識したケアに取り組んでいる。残存能力を活かして出来る範囲の動作を尊重するとともに、否定的言動を発しないよう、その人らしさを常に配慮したかかわり方に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援できる様に心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添い、希望に添えるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容や、季節に合った服装を提案させて頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、おやつを作る等、職員とともに取り組んで頂いている。下膳できる方は見守りの上行って頂いている	調理は専属の職員が行い、事後に記録を残し、食材は職員が買出しに向いている。職員は利用者との共同生活者としての自覚をもって、同じテーブルで同じ食事をし、声をかけながら和やかに支援することに努め、共同感・信頼感に繋がる努力を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	暑い日は普段より、水分を多めに取って頂けるように声掛けさせて頂いている。また、食事量が過不足ない様に心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けして出来る方は行って頂き、出来ない方は支援させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その方が出来ない事を支援している	ほとんどの利用者はトイレでの排泄が出来ており、安全面に注意しながらの支援が行われている。紙オムツの利用は少なく、自然な体位の排泄支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や腹部マッサージを行い予防している。牛乳やきな粉牛乳なども提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜にゆっくり休んで頂けるように、午後の入浴を可能にしている。また、希望によってデイサービスの大浴場にて入浴することもある	日頃は事業所のユニットバスを使用するが、2ヶ月に1度、併設施設の大浴場を使用し、歌を歌いながら入浴を楽しんでいる。入浴は睡眠への支援と捉え、午後入浴を実現している。また職員は入浴中に利用者との話の機会を多くするように関わり、関係性を築いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に休んで頂けるよう、環境作りを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の確認を行い、変更があった際は職員同士で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節や気候に合ったレクの提供、また、散歩等、個別で行うレク実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブに行っている。外食する際は事前に家族に連絡し、了承を頂いている	受診時にあわせた外食や買い物等に、家族が連れていく機会がある。事業所の駐車場が広いので、外での食事会や外気浴等が行われ、気分転換とともに、骨粗しょう症予防のため、多くの外出の機会が得られるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが、お小遣いを使い個別で欲しいものを買に行ったり出来るよう機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節に合った飾りつけを利用者様と共同で作成している	共有スペースには、職員とともに作成した飾り物や、行事参加の際の利用者の写真や、誕生日祝いの職員が演出した展示があり、季節感を感じ、自分を確認出来る刺激への効果が得られるようにしている。利用者は、自分の写真や名前を見つけることでの喜びを実感している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室などはプライバシーを確保できるように心がけている。また、利用者様同士交流できる様な機会も設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの道具等の持ち込みを行い、過ごしやすい環境作りを行っている	設備品はベットと洗面台・エアコンがあり、入口は引き戸でプライバシーが守られている。入居時には、私物の持ち込みや部屋の様子を説明している。テレビのある居室に利用者が行き来し、利用者同士の交流も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし、出来る事、分かる事を減らさない様に支援を行っている		